

2012年10月1日

アメリカ大統領 バラク・オバマ 殿  
内閣総理大臣 野田佳彦 殿  
外務大臣 玄葉光一郎 殿  
防衛大臣 森本 敏 殿  
沖縄及び北方対策担当大臣 樽床伸二 殿

沖縄県保険医協会  
会 長 仲里尚実

## 危険な米軍輸送機オスプレイの配備に強く抗議し、 普天間基地の即時閉鎖・無条件返還を求める

本日、日米両政府は沖縄県民・国民の強い反対の声を無視して、米海兵隊の垂直離着陸機輸送機 MV22 オスプレイの普天間基地への配備を強行した。

そして今月中には普天間基地を拠点に本格的な運用を行うとされている。

オスプレイは、開発段階から何度も墜落事故を引き起こし、今年4月にモロッコでの墜落事故で2名が死亡したのに続き、6月にはアメリカのフロリダ州で墜落するなど、これまでに少なくとも36名が死亡しており、欠陥機であることが明らかとなっている。

周囲に民家や学校、保育園、病院などが密集している、「世界一危険」な普天間基地に欠陥機オスプレイを配備することは言語道断である。

オスプレイが運用されれば、沖縄本島だけでなく周辺離島の住民も危険にさらされることになる。

沖縄では県議会が三度の配備反対の決議をあげ、県知事をはじめ41全市町村長、全市町村議会がオスプレイ配備に反対し、9月9日には10万3千人が結集して「オスプレイ配備に反対する沖縄県民大会」も開かれるなど、オスプレイ配備反対は「オール沖縄」の声となっている。

私たちは国民の命と健康を守ることを使命とする医師・歯科医師の団体として、県民の声を無視し、県民の命を危険にさらすオスプレイの強行配備に強く抗議し、撤回を求めるものである。

また「世界一危険」な普天間基地はただちに閉鎖し、無条件返還するよう強く要求する。